

◇分業と協業の定義	<p>1.分業－ 1)一般的分業－農業、工業、商業等大部門への社会的生産の分割。 2)特殊的分業－生産部門の種、亜種への分割、労働部門の諸種類。 3)個別的な分業－作業場内の分業、本来の意味での分業。作業分割。</p> <p>2.協業－ ①同一の生産過程又は相異なるが関連ある諸生産過程で、 ②計画的、相並び、相協力して労働する、 ③多数者の労働の形態。</p>	<p>p295.296</p> <p>p254末</p>
-----------	---	------------------------------

第11章 協業

	<p>1 単純なる協業</p> <p>・結合労働日</p> <p>・協業の条件</p>	<p>□資本主義的生産の出発点 ①同一の個別資本。②多数の労働者の同時使用、③労働過程の範囲の拡張、④比較的大きい量的規模、の生産物供給。(①比較的大きい労働者数、②同一時間、同一空間、同一労働場所、③同一商品生産、④同じ資本家の指揮下。</p> <p>大量の使用価値生産、一単位生産に必要な労働時間の減少、高められた生産力。その特殊なる生産力は、労働の社会的生産力、または社会的労働の生産力である。それは協業そのものから生ずる。</p> <p>ア、一定の場所での労働者の集合、イ、同一資本家による同時充用、労働力の同次買い、ウ、協業する労働者数、協業規模は、労働力購入の資本の大きさに依存する。 ①資本家の比較的大量の生産手段の集積は、賃銀労働者の協業に対する物質的条件。協業、の程度、生産の規模は、この集積の程度に依存する。 ②資本の特殊機能として指揮、監督の発展、同時に社会的労働過程の搾取の機能である。</p>	<p>p249</p> <p>p261</p> <p>p262</p> <p>p263</p> <p>p264</p>
--	---	---	---

第12章 分業と工場手工業

<p>第一節</p> <p>2 分業に基づく協業</p> <p>□二重の仕方で発生</p> <p>□社会的生産物</p> <p>□分業と結合</p> <p>第二節</p> <p>□労働生産性</p> <p>□工場手工業時代</p>	<p>□工場手工業において典型となる。16世紀半～18世紀最後1/3期、工場手工業時代。</p> <p>1、①種々の種類の独立手工業労働者たち、②同一資本の下、③同一作業所に結合。⇒[本質的な変化]種々の独立手工業の結合体⇒種々の特殊作業へに分割。(馬車生産を)種々の特殊作業に分割し、各個の作業はある労働者の専属機能に結晶し、総体が部分労働者の結合によって遂行される。 2、<種々の作業が同一手工業者に時間的に順次行われる>代わりに、労働が分割、分離、分立され、各々が別々の手工業者に割り当てられる。全て協業者により同時的遂行される。組織的分業へ。</p> <p>◆商品は独立手工業者の生産物から、各自がただ一つの同じ部分作業のみを行う諸工業者の社会的生産物に転化する。 工場手工業は一方では生産過程に分業を導入、発展させる。他方では従来分離していた諸手工業を結合する。</p> <p>労働の生産性は、手工業者労働者の技術と道具に依存。労働用具の分化、特殊化とこれを使う部分労働者、この二つが工場手工業の特徴である。</p> <p>部分労働者の専属的特殊機能に労働用具を適応させ、用具の単純化、改良、多種類化。単純な諸道具の結合から成り立つ機械装置の物質的諸条件を作り出す。</p>	<p>p272</p> <p>p274</p> <p>p275</p> <p>p280</p>
---	--	---

<p>第三節</p>	<p>■工場手工業の二つの基本形態</p>		
<p>□製品の性質から生じる。</p>	<p>1、異種の工場手工業—個人的生産物⇒無数の部分労働者の社会的生産物へ転化[例・時計生産] 資本の指揮下での部分労働者の直接の協業</p>	<p>p281</p>	
	<p>2、有機的工場手工業—系列の段階的諸過程を通過する製品[例・縫針生産—72～92種の連続的作業過程。</p>	<p>p284</p>	
<p>□工場手工業の特徴点</p>	<p>・一段階から多段階への製品移行時間短縮。労働の減少。生産力増高、協業による利益。異なった生産段階の分立化と、一つの過程から多の過程への製品の運搬。大工業から見れば、この製品の運搬は、工場手工業に内在する制限である。</p>	<p>p285</p>	
	<p>・工場手工業は協業ではあるが、その作業の分解によって創造され、他方同じ労働者を同じ細部に固着させることによるのみ労働過程の社会的組織を達成する。</p>		
	<p>・各部分労働者の部分生産物は同じ製品の一つの発展段階。一労働者群は他の労働者群に原料を供給。一労働者の労働成果は、他の労働者の労働のための出発点。</p>		
	<p>・独立手工業、単純な協業とさえも異なる、労働の連続性、一様性、規則性、秩序および労働の強度が産出。</p>	<p>p286</p>	
<p>□生産過程の技術的法則 部分機能と全体</p>	<p>・商品生産一般では、一商品の生産に必要な社会的労働時間の支出は、競争の外部的強制として現れる。各個の製品を市場価格で売らなければならない。これに対し工場手工業では、与えられた労働時間内で与えられた生産物を供給することは、生産過程そのものの技術的法則となる。[労働群の構成の量的、規則的比例関係。数学的比率。]</p>	<p>p287</p>	
<p>□種々の工場手工業の結合</p>	<p>・種々の手工業の結合から発生した工場手工業は、種々の工場手工業の結合にも発展する。 [例・鉛ガラス工場手工業—生産手段・原料と生産物のそれぞれの工場手工業との結合。結合工場手工業] ・結合工場手工業は、多くの利益をもたらすが、何らの現実的な技術的統一を獲得していない。この統一は、工場手工業が機械経営に転化するとき、初めて生じる。</p>	<p>p290</p>	
<p>□機械の使用へ</p>	<p>・商品生産の必要労働時間の短縮＝工場手工業の意識的原則 機械の使用へ。初歩的には大量的、大きな力の支出の遂行。[例・製紙工場—ぼろの粉碎機、製紙用圧搾機][機械装置の原動力—水車、羅針盤、火薬、印刷術、児童時計] 17世紀に散見する機械装置の応用が極めて重要なものになったのは、大数学者たちに近代機械学創造への手がかりと刺激を提供したからである。</p>	<p>p291</p>	
<p>□労働力の等級 不熟練労働と 熟練労働者</p>	<p>・労働者は主要な特性に応じて区分、分類、編成され、労働力の等級制をはってんさせ、労働賃金の階梯が対応する。 工場手工業は不熟練労働者の一階級を生み出す。熟練労働者と不熟練労働者の区別が生じ、いずれの場合も労働力の価値は低下する。</p>	<p>p294 p297</p>	

<p>第四節</p>	<p>■工場手工業内の分業と社会内の分業</p>		
<p>□分業の定義</p>	<p>1. 一般的分業—農業、工業、商業など大部門の社会的生産の分割。 2. 特殊的分業—生産部門の種、亜種への分割。 3. 個別的分業—作業場内の分業。本来の意味の分業、作業分割。</p>	<p>p295再掲</p>	
<p>□社会内分業と 発展</p>	<p>・家族内部⇒種族内部に。性と年齢の差異、生理的な基礎の上に自然発生的分業発生。共同体の拡大、人口の増大、部族間闘争、他部族による征服に伴い分業を拡張する。</p>	<p>p296</p>	

□生産物交換	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の家族、部族、共同体の接触地点に、生産物の交換が発生。異なる共同体の異なる生産手段と生活手段、異なる生産様式、生活様式、生産物。相互の生産物の交換、生産物の商品への漸次的転化を引き起こすものは自然的差異である。 	p296
□社会的分業の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・元来相異なる、相互に独立した諸生産部門間の交換によって、社会的分業が成立する。 ・すべての発展した商品交換によって媒介された分業の基礎は、都市と農村との分離である。 ・工場手工業内の分業の物的前提-同時に使用される労働者の一定数。社会内分業-人口の大きさとその密度。 ・工場手工業的分業-ある発展度まで成熟した社会内分業を必要とする。逆にそれは反作用的に社会的分業を発展させ倍加させる。同一の生産者による産業→分離と相互的な独立化。商品の種々の生産段階→種々の独立の産業に転化する。同じ生産部門が、原料の相違にに応じて、原料の種々の形態に応じて全く新たな手工業に分かたれる。18世紀前半フランスで100種類以上の絹織物。 ・世界市場の拡大、植民制度は、社会内分業の豊富な材料を提供する。 	p298 p299
□社会的分業と工場手工業的分業の類似と異質	<ul style="list-style-type: none"> ・類似-種々の業種の組み合わせ、飼畜業者=皮生産、製革業者=革、製靴業者=深靴。・段階生産物の生産。特殊労働の生産物。-主観的にのみ工場手工業的分業と区別される。 ・工場手工業の場合-種々の部分労働が空間的ひとまとめで見られるが、社会的分業では広い面積に散在し関連が不明。観察者にとってのみ区別される。それぞれ独立の労働間の関連は、それぞれの商品としての存在。これに対し、工場手工業的分業の特徴は、部分労働者が何ら商品をも生産しない、共同生産物がはじめて商品に転化する。社会内分業は種々の労働部門の生産物の売買によって媒介される。 	p301
□生産手段の配分	<ul style="list-style-type: none"> ・工場手工業-種々の労働力が結合労働力として同一資本家に売られ、生産手段の集積を前提sr。社会的分業-多数の独立した商品生産者の生産手段の分散を前提とする。 ・工場手工業-比例数、均衡の鉄則の一定の労働者群配置。商品生産者と生産手段の配分は、偶然と恣意、種々の生産部門はたえず均衡を保とうとする。 	
□価値法則と労働配分	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で各商品生産者は一つの使用価値を生産し、一つの社会的欲望を充足。その欲望の範囲は量的に異なり、一つの内的靱帯が種々の欲望量の一つの自然発生的体制に結びつけることによって、他方では全労働時間の幾ばくを各商品種類の生産に支出しうるかを、諸商品の価値法則が規定する。種々の生産部門が均衡を保とうとする不断の傾向は、均衡の不断の廃棄に対する反作用として働くにすぎない。 	p302
□市場価格	<ul style="list-style-type: none"> ・作業場内の分業-はじめから計画的に守られる規律。 ・社会内分業-内的・無言の市場価格の晴雨計的変動により知覚される。商品生産者の無規律な恣意を圧倒する自然必然性として。 	
□権威	<ul style="list-style-type: none"> ・工場手工業的分業-全体機構の単なる肢体にすぎない人間、資本家に対する無条件的権威を前提とする。社会的分業-独立商品生産者を相互に対立させるが、競争の権威以外、相互の利害の圧迫・強制以外には、なんらの権威をも認めない。 * 資本主義的生産様式社会-社会的分業の無政府と工場手工業的分業の専制が互いに制約し合う。 	p304
□同職組合規則	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の親方の使用しうる職人の数を極度に制限-親方の資本家への転化を計画的に阻止。親方である手工業においてしか職人を使用できない。対立する商人資本の侵害を阻止。商人はあらゆる商品を買うことが出来たが労働だけは買えなかった。手工業生産物の問屋としてのみ黙認されたが、種々の手工業が一つの作業場に包括されることはなかった。労働者と生産手段は互いに結合されたままで、工場手工業の第一の基礎である、労働者に対する資本としての生産手段の独立化が欠けていた。 ・工場手工業的分業は、資本主義的生産様式の全く特有なる創造物である。 	p307 p308

<p>第五節</p>	<p>■工場手工業の資本主義的性格</p> <p>・使用労働者数</p> <p>・可変資本及び不変資本の増加</p> <p>・労働の生産力</p> <p>□等級制的編成</p> <p>・部分労働者</p> <p>□社会的労働の組織と生産力</p> <p>□使用価値および交換価値、商品の低廉化</p> <p>・工場手工業の伸張と障害</p> <p>□機械による工場手工業の廃棄</p>	<p>・同じ資本の指揮下の比較的大きい労働者数—協業一般の自然発生的出発点。同様に工場手工業の出発点。逆に工場手工業的分業は使用労働者の増加を技術的必然にまで発展させる。分業の利益の獲得には労働者数を幾倍か一層大きな数に増加させねばならない。</p> <p>・資本の可変的構成部分とともに、不変的構成部分もまた増大せねばならない。労働者数よりもはるかに急速に原料が増加せねばならない。一定時間内に与えられた労働量によって消費される原料の量は、分業によって労働の生産力が増加するのと同じ割合で増加する。</p> <p>・個々の資本家の手中にある資本の最小限量の漸増、社会的<u>生活手段と生産手段</u>の資本への漸増的転化は、工場手工業の技術的性格から生じる一法則である。</p> <p>・協業および工場手工業における、資本の一存在形態としての機能しつつある労働体。労働の結合から生じる生産力は、資本の生産力として現れる。・以前は独立していた労働者を資本の指揮と規律とに服せしめ、それだけでなく労働者間の等級制的編成をつくりだす。</p> <p>・工場手工業は個々人の労働様式を根底から変革し個別労働力の根本を捉える。工場手工業労働者は、独立したものをつくる能力を奪われ、ただ資本家の作業場の付属物としてのみ生産活動を展開する。分業は、工場手工業労働者に、資本の所有なることを示す烙印を押す。</p> <p>・部分労働者が失うものは彼らに対立して資本に集積される。精神的諸力能を他人の所有として、彼らを支配する権力として、部分労働者に対立させることは工場手工業的分業の一産物である。</p> <p>・この分離過程は、単純な協業に始まり、労働者を部分労働者に奇形化する工場手工業で発展し、大工業において完結する。</p> <p>・工場手工業的分業は、手工業的活動の分解、労働用具の特殊化、部分労働者の形成、一つの全体機構における彼らの配列と結合により、社会的生産過程の質的編成と量的均衡を、したがって社会的労働の一定の組織を作り出し、同時に労働の新たな社会的生産力を発展させる。</p> <p>・資本主義的形態においてしか発展しえなかった—工場手工業的分業は相対的剰余価値を産み出すための、あるいは資本の自己増殖を労働者の犠牲において高めるための一方法に過ぎない。</p> <p>・工場手工業は、一方では社会の経済的形成過程における歴史的進歩と必然的發展契機として現れるとしても、他方では文明化され洗練された搾取の一手段として現れる。</p> <p>・工場手工業時代に初めて出現する経済学は、社会的分業を工場手工業的分業の立場からのみ考察し、同量の労働をもって、より多くの商品を生産するための、したがって商品を低廉化し、資本の蓄積を促進するための手段としてのみ考察する。</p> <p>・この量と交換価値との強調とは正反対に、古典的古代の著述家たちは、もっぱら質と使用価値とを固執する。</p> <p>・生産物も生産者も分業によって改善される。生産物量の増加が述べられることがあっても、それは使用価値がより豊富であることについてであり、交換価値とか商品の低廉化については一言も述べられない。</p> <p>・労働者の等級的編成、熟練労働者と不熟練労働者の区分をつくり出す。前者の優勢な影響は後者の数を制限している。工場手工業は種々の特殊作業を生きた労働機関に適合させ、また婦人と児童の生産的搾取に向かって進むが、習慣と男子労働者の抵抗のために挫折する。手工業的活動の分解は、労働者の養成費とその価値を低下させるが、比較的困難な細部労働には、依然として比較的長い就業期間が必用であり、労働者によって維持される。イギリスでは七年修行期間を規定する徒弟法は大工業によって初めて廃棄された。</p> <p>・工場手工業は社会的生産を全範囲にわたって捉えることも、その深部から変革することも出来なかった。その特有の狭隘な技術的基礎は、一定の発展に達したとき、それ自身によってつくり出された生産諸要求と矛盾するに至った。・工場手工業的分業の生産物が次ぎに生産したのは機械だった。機械は社会的生産の規制的原理とし活動を止揚する。</p>	<p>p309</p> <p>p311</p> <p>p316</p> <p>p317</p> <p>p321</p>
------------	--	--	---